

金融市場NOW

# 家計の金融資産 過去最高

## 昨今の株高を背景に時価が上昇

- 2017年12月末時点の家計金融資産残高は、前年同期比3.9%増の1,880兆円となり過去最高を更新。
- 株価の上昇を背景に、家計が保有する株式や投資信託の評価額が膨らんだことが要因。
- 家計金融資産の過半が現金・預金である姿に変化はなく『貯蓄から投資へ』の浸透には時間を要する。

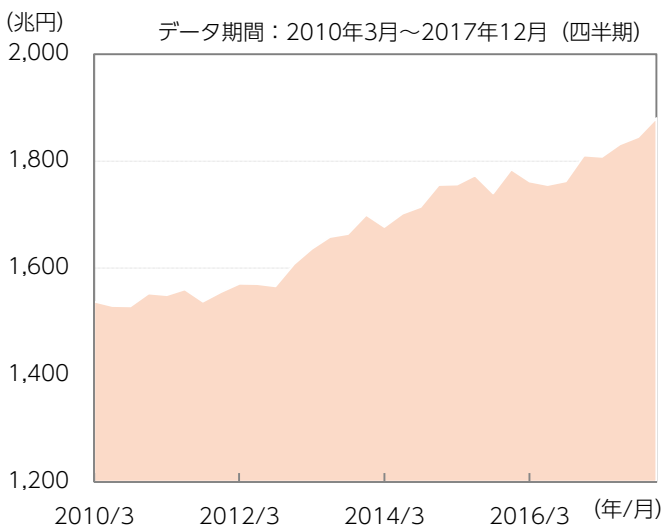
日本銀行が2018年3月19日に発表した2017年10～12月期資金循環統計（速報）によれば、2017年12月末時点で家計が保有する金融資産の残高は前年同期比（以下同様）3.9%増の1,880兆円と過去最高を更新しました。昨今の株価の上昇を背景に、家計が保有する株式や投資信託の評価額が膨らんだことが要因とみられています。前年同期の水準を上回るのは、6四半期連続です。

家計が保有する株式は1年間で31兆円増加し、2017年末時点で211兆円となりました。世界的な景気拡大を背景に日経平均株価は1年間で19%上昇しており、含み益が増えたことから、時価の上昇分がおよそ36兆円強に上りました。その一方で、家計は保有していた株式を売却して利益を得ており、売り越し額は1年間でおよそ4.5兆円にのぼりました。

金融資産の主な内訳は、現金・預金が2.5%増の961兆円、株式等が17.3%増の211兆円、投資信託が13.1%増の109兆円となり、それぞれ残高が過去最高を更新、保険・年金などは0.7%増の520兆円となりました。株式は、株価上昇による時価評価の上昇により、投資信託は時価評価上昇のほか、新規資金の流入が継続していることも増加に寄与しました。

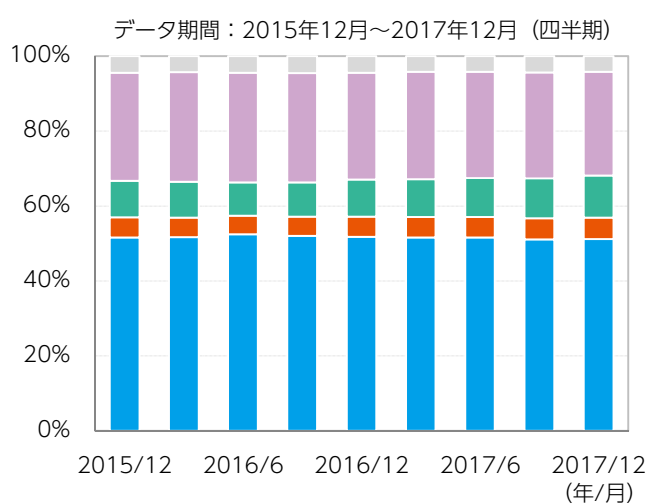
政府は長年『貯蓄から投資へ』をスローガンに、リスク性資産への投資を推進しようとしています。今回のリスク性資産の大きな増加要因は株式や投資信託の時価額が膨らんだことであり、『貯蓄から投資へ』のさらなる浸透にはまだまだ時間を要するとみられます（図表2）。

図表1：家計の金融資産残高は過去最高を更新



※家計金融資産残高の推移

図表2：家計金融資産の過半を現金・預金が占める



■ その他 ■ 保険・年金・定型保証 ■ 株式等 ■ 投資信託 ■ 現金・預金

※家計金融資産構成の推移

出所) 図表1、2は日本銀行のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>